



まちコレポ

このレポートは、かりや夢ファンド（★印参照）の採択事業をまちづくりコーディネーター【愛称＊まちコ】が取材し、まとめました。

団体名 **元気な一ツ木まちづくり隊**

事業名 **はっぴ祭り** [令和5年度まちづくり活動]

事業の紹介



補助金額 **20万円** / 総事業費 **40.4万円**

「地域の子どもは地域の宝」をキーワードに、一ツ木地区の元気な一ツ木まちづくり隊が、地域の子ども達が「笑顔、元気、一ツ木を好きになる」活動として、2016年より地域のお祭りを開催しています。

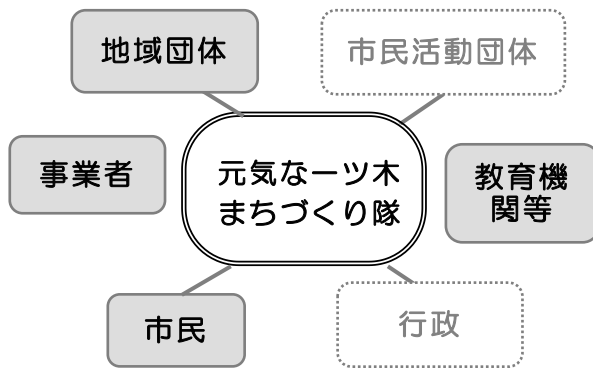
一ツ木神明社の祭りの日に、子ども達に縁日で楽しんでもらうだけでなく、屋台の出店やカフェの店員体験をする機会を作っています。これらは、子ども達に地元の楽しい思い出を作る内容で、生まれ育った地域の愛着形成にもつながる機会となります。また、地域の自治会、おやじの会、まるしえに出店するママたち等と連携し、住み続けたいまちづくりにつなげます。

「かりや夢ファンド補助金」は、縁日の景品やイベントに必要な物品等の購入に活用しました。



輪投げの屋台。おやじ倶楽部メンバーが大活躍！

協働の役割分担



地域団体 〈役割〉	一ツ木自治会、かりがね小おやじ倶楽部、平成小おやじの会、ママまるしえ出店、神社奉賛会、采会他 〈地区の調整や備品調達、スタッフ参加、イベント出店協力〉
教育機関等 〈役割〉	雁が音中学校 〈ボランティア募集〉
事業者 〈役割〉	かりがね発展会、コメダ珈琲刈谷店（※R5実施なし） 〈イベント出展協力、備品調達等〉
市民 〈役割〉	お祭り参加

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

自分たちが子どもの頃に感じたお祭りの楽しさ、活気を今の子ども達にも伝えたい！

「楽しい経験をさせてあげたい」

キッズニア(子ども向け職業体験)のイメージで、子ども達にはお祭りを楽しむ機会を、親には子どもの写真を撮る機会を提供し、多世代との交流の場を作りたいと考えて始めました。

こんな準備をして取り組みました

コーヒーショップに協力を得て、キッズバリスタ(ドリンクやフード提供)体験が出来るようにしました(R5年度は実施見送り)。

中学生には、運営スタッフになってもらうよう、学校へボランティア募集を依頼しました。

自治会や神社奉賛会、地域団体とも連携し、企画、運営しました。

こんな点を工夫しました

模擬店の子ども向けのマニュアルを作りました。運営の仕組みを覚えながらも、子どもたちの創造性も養えるよう、子どもが検討する機会をつくり、意見を取り入れました。

子どもがより参加しやすいよう、次回に向け、学校にテストの日程を相談しました。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>



こんな活動をしました！

日 時：2023年10月1日（日）10時00分～15時30分

場 所：つげの木公園

参加者：1500名程 運営者（7名）、中学生ボランティア（11名）

広報媒体：チラシ配布（回覧板、幼稚園・保育園3園）・ポスター掲示（掲示板、小学校、お店）

内 容：一ツ木町の祭りに合わせ、隣接したつげの木公園でゲーム屋台やマルシェを開催。マルシェには、一ツ木地域内の飲食店の出店や、地域のママさんで装飾品づくりをしている人による小物販売等が行われました。また、おやし俱樂部や中学生ボランティアが射的やサメ釣り、輪投げ等のゲームを屋台で行い、参加者に景品配布も行われました。



現場の様子

こんな効果が生まれました

- ・子どもがお祭りに参加して、地元地域に楽しい場がある事を知ってもらいました。
- ・一ツ木の街の活性化に向け、いろんな人・団体が交流し、関われる機会が生まれました。
- ・お祭りでの子ども神輿の練り歩きの参加者が減っていましたが、縁日ゲームの参加券を配ることで練り歩きの子集めに貢献しました。
- ・子を持つ父親たちが、地域に関わる場が生まれました。

こんな課題がありました

- ・天候により、お祭りの参加者数に影響があります。
- ・運営団体の年代が上がっているため、スタッフの確保が必要です。
- ・子ども会が消滅した学区もあり、子どもの参加をまとめる体制が減っています。
- ・中学生ボランティアに当日協力してもらっていますが、テスト週間と重なってしまうと参加出来なくなるため、学校側とテスト日程の調整が必要です。

今後に向けて

- ・活動を継続する上で、運営費集めが課題でしたが、自治会の協力により予算が確保出来てきました。より多くの団体と連携できると、さらなるまちづくりにつながります。
- ・継続できるよう、運営スタッフの育成、募集と当日スタッフの募集が必要です。
- ・企業等へアプローチを自治会からしてもらうことにより、協力者がさらに増えることを期待しています。

参加者の声

- ・地域で楽しい思いが出来て、一ツ木の街を活性化したい子が育っていったら良いと思います。（おやし俱樂部）
- ・サメ釣りとかゲームが楽しい。（子ども）
- ・地域の人に「こんな小物を作る人がいるんだ」とPRの機会になります。（ママまるしえ）
- ・店長に相談したら出店の許可が出ました。地域に貢献出来ていると思います。（スバカマナ:出店者）
- ・街がにぎわって、つながって良いと思います。（地区の人）
- ・高校生になっても参加できるならやってみたいです。（中学生ボランティア）

主催団体の声

- ・みんなが楽しんでもらえることが、嬉しいです。
- ・続けていく上で、次の担い手の育成など課題はありますが、協力者が広がっているため、次世代の後継者が出来ると良いです。
- ・自治会の理解を得て協力頂くことは、地区で活動する上で重要です。
- ・これからも楽しく継続できるようにしたいです。
- ・次世代の子まで体験できるように、今後20年くらい…長い先まで継続を目標にしています。

取材を終えて…まちコ感想

- ・地域に住む人が、子ども達のために自らイベントを作り出されたエネルギーに感動です。また、現地でゲームの順番を待つ子ども達の列を見て、安心して子どもが楽しめる機会づくりの大切さを実感しました。地域の神社のお祭りと親が子に願う気持ちがうまく融合して、まちづくりに貢献されているこのケースを活動モデルとして他地区にも知らせたいです。（松浦章子）
- ・一ツ木地区の方々が、世代や役割関係なく楽しんでいる様子が印象的でした。中学校がはっぴ祭りとテストの日程を重ねないように年間予定を組んでいると聞いた時は、しっかり連携が取れていてすごいと思いました。こうした地域と学校の連携が、この事例をもとに各地区に広がることで、子どもたちの学びの場が広がると同時に地域活性につながると考えます。（石田彰宏）